授業概要

日本と南アジア、南西アジアの国々との相互認識を、歴史的にさかのぼって検討する。時代的には、19世紀から現在まで、双方にかかわりの深かった人物を中心に考察する。日本における南西アジア研究と、南・南西アジアにおける日本の地域研究、地域認識を通して、互いにどのような関係を築こうとしていたのかを分析する。当該地域研究における問題と課題について考える。

授業計画

第 1 回	日本とインド 歴史的関係
第 2 回	岡倉天心のアジア、インド観
第 3 回	タゴールのナショナリズム
第 4 回	大川周明のインド研究
第 5 回	中村屋のボース
第 6 回	プラターブとコミュニナリズム
第 7 回	サハーイーと朝子
第 8 回	A.M.ナイルと満州国
第 9 回	大東亜戦争とインド工作
第 10 回	S.C.ボースとインパール作戦
第 11 回	インド国民軍とインパール作戦
第 12 回	パール判事とナショナリズム
第 13 回	戦後の闘争から分離独立
第 14 回	「強い」インドー核開発
第 15 回	自動車革命と日本
第 16 回	筆記試験

到達目標

日本における南・南西アジア研究の抱える諸問題について、その時代的特徴を理解し、自分なりの考えをまとめ、また地域研究とはどのようなものかについて、理解する。

履修上の注意

南アジア、南西アジア地域が中心である。

予習・復習

シラバスに従って基本的な知識を予習する。講義後は、配布されたプリントと参考文献などを読んで知識を深めておくこと。

評価方法

授業中の態度、授業後に回収するリアクシヨペーパーの内容が 50%、学期末の筆記試験 50%として総合的に評価する。

テキスト

テキストは使用しない。授業中にプリントを配布する。参考文献は適宜紹介する。